

## 4 産業振興・雇用創出

4-1 観光を基軸とした産業振興

4-2-1 阿智の特色を生かした農業振興  
(農業の振興)

4-2-2 阿智の特色を生かした農業振興  
(有機活用農業の推進)

4-3 里山の風景を残す林業振興

4-4 地域に根差した商工振興

4-5 まちづくり計画

## 4-1

関連する SDGs の目標



## 観光を基軸とした産業振興

[商工観光課 観光係・商工係]

**施策目標** 5年後の阿智村を見据えて

リニア中央新幹線の開業、三遠南信自動車道の全線開通による新しい高速交通時代を見据え、昼神温泉を中心とした観光業の振興により、交流人口の拡大を図るとともに、観光業と住民・各産業を有機的に連携させることで産業を振興し、雇用の創出による人口増、若者定住を図り持続可能な村づくりをめざします。

**現状と課題**

阿智村は日本一の星空や良質な温泉等恵まれた資源を活用しブランディングを高め、飯伊地域での観光消費額において、その半分を占める一大観光地となっています。しかし、新型コロナウイルスの影響により落ち込んだ需要の回復には、しばらく時間がかかることが推察されます。

また、核となる昼神温泉は出湯から半世紀という節目を迎え、変化に富むであろう、この先50年を更に発展した形で迎えられる仕組みづくりや見直しが求められています。平成24年度からのスタービレッジ事業により、阿智村は星の村として広く認知されるようになりましたが、観光客を滞留させるための各産業と連携する仕組みは発展途上にあります。平成29年には、国が推進する観光による地域づくりに取り組む、日本版DMO法人に（株）阿智昼神観光局が登録され、地域内のマーケティング、マネジメントに取り組んでいます。村内観光地や地域事業のプロモーション、観光農園への送客、村内観光地巡り、また昼神温泉をはじめとした観光施設での地産地消など様々な取組が行われてきました。村と関係機関が連携し観光業と各産業、地域の継続的な事業の推進が必要です。

観光地を取り巻く厳しい環境は続いていますが、阿智村は旅行形態や旅行目的の変化に対応し地域間競争で選ばれる観光地となっています。これを持続していくために更なるブランディング強化、国や県の旅行需要喚起策と歩調を合わせた誘客施策を引き続き展開する必要があります。

また、リニア中央新幹線開通による超高速交通時代に対応するため、近隣市町村、隣圏域と連携して広域での誘客、情報発信をしていく必要があります。

○観光地利用者数・消費額の状況【出展：長野県「観光地利用者統計調査」】

(単位:千人・百万円・%)

市町村	平成30年度(2018年度)			令和2年度(2020年度)		
	利用者数	消費額	割合	利用者数	消費額	割合
阿智村	1,354	6,208	30.4	710	3,276	52.0
うち昼神温泉	602	3,834	36.3	334	2,156	34.2
飯田下伊那	3,750	10,568	100.0	2,625	6,295	100.0

### 施策の基本方向

(1) 観光と農林業・商工業が連携して事業を展開します。

施策の展開	取組内容
① 日本版DMO登録による観光地域づくりと産業振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ (株)阿智☆昼神観光局の日本版DMO法人登録により、村全体の観光をマネジメントする組織として支援し、観光による地域づくりを図ります。</li> <li>○ 観光地としての村全体の意識の醸成を進めます。</li> <li>○ ユニバーサルツーリズム※の推進を支援します。</li> </ul>
② 効果的な告知戦略と地域商品力の品質強化・ブランド継続への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ (株)阿智☆昼神観光局が中心となり、魅力ある観光地づくりや効果的な誘客対策・情報発信を行います。</li> <li>○ 「日本一の星空」「花桃」「昼神温泉」などの品質向上、ブランド力強化と環境保全を図るため、村全体へ波及する取り組みを進めます。</li> <li>○ 出湯50周年を契機に昼神温泉の更なる魅力を発信します。また、100周年を発展して迎えるための温泉地づくりに取り組みます。</li> </ul>
③ 観光を基軸とした、農林業、商工業との連携による事業展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ この地域を訪れる人を増やすための地域の魅力づくりを、観光が基軸となり農林、商工業と連携し、産業の発展と事業継続を図ります。</li> </ul>

▶用語

※ユニバーサルツーリズム

年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加できる旅行のこと。

（2）阿智村への人の流れをつくります。

施策の展開	取組内容
① リニア中央新幹線、三遠南信道を見据えた産業振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ リニア中央新幹線の開業、三遠南信自動車道の新線開通による新しい高速交通時代を見据えた、新産業の創出、地域産業の高付加価値化、魅力ある観光地づくりを支援します。</li> <li>○ 昼神温泉リニア新時代構想の推進に取り組みます。</li> </ul>
② 広域での観光連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県、南信州、三遠南信、木曾、中津川、等と広域的に行う観光連携に取り組みます。</li> <li>○ 長期滞在を目指し、上下伊那での積極的な観光連携を図ります。</li> </ul>
③ 公共交通機関の利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公共交通の充実への働きかけをします。リニア長野県駅、岐阜県駅からの2次交通の整備に取り組みます。</li> <li>○ 昼神温泉郷内での自動運転車による交通手段導入の研究をします。</li> </ul>
④ インバウンド※の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ インバウンド誘致に取り組みます。</li> <li>○ 訪日外国人旅行者が安心して快適に滞在することができる環境整備（全村への英語表記のサイン等）の研究を行います。</li> </ul>

▶用語

※インバウンド

外国人が訪れてくる旅行のこと。

（3）域内消費の仕組みづくりを行います。

施策の展開	取組内容
① 温泉での地元産品の消費拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 昼神温泉郷内を観光客が歩いて散策できるまちづくりを進めることにより、地元産品を観光客や村民が気軽に購入できる場の創出に取り組みます。</li> <li>○ 産業振興公社と連携し、地域産品の消費を推進します。</li> </ul>

<p>② 村内各地域の資源を活かした観光連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 山岳や高原、キャンプ・スキーなどのアウトドア、古代東山道や中馬街道などの歴史観光、農家民泊やリンゴ狩りの体験など、地域の資源を活かした取り組みを支援します。</li> <li>○ 各地域の観光資源を活かし昼神と連携した魅力アップを行い、訪れる人の目的（星空、花、イベント、文化、写真 等々）に沿った地域資源の発信に取り組みます。</li> <li>○ 全村博物館構想などと連携し、阿智村の良さを村民が理解し、観光客にPRできるようなイベントや情報発信を行います。</li> </ul>
----------------------------	---

**成果指標**

指標名	基準値 (基準年度)	目標値 (R9)			備考
		数値	単位	期間等	
観光地利用者数（阿智村）	751 千人 R3(2021)	1,264	千人	年	長野県観光地利用者統計調査
観光消費額（阿智村）	3,276 百万円 R3(2021)	5,724	百万円	年	長野県観光地利用者統計調査

# 4-2-1

関連する SDGs の目標



## 阿智の特色を生かした農業振興(農業の振興)

[建設農林課 農政係]

### 施策目標 5年後の阿智村を見据えて

村の基盤産業を支えるすべての農業者が元気に活躍し、生きがいと誇りを持てる村をめざします。

### 現状と課題

全国的に単身世帯、共働き世帯の増加や生活スタイルの変化等により、消費者が農畜産物に求めるものが多様化しており、それぞれの志向に合わせた生産、販売が必要になっています。産業振興公社では、農産物の有利販売の販路を開拓してきた為に、阿智村認証農産物が認知され販売量は増加してきました。

高齢化、獣害による耕作意欲の低下等により、これまで農業を支えてきた世代の離農や経営規模の縮小が進み、農業生産力の低下や産地の衰退により耕作放棄地の増加などが懸念されます。

村内担い手の高齢化は進み、離農者も増加している。基盤整備事業や土地改良補助を利用いただき遊休農地の解消には一定程度の効果があるが、放棄地はそれ以上に増加しています。

このため、IUターンによる就農希望者、定年退職者の就農や、専業農家や農地の保全に努めている兼業農家も含めた農業全体の支援が必要です。また、畜産などの経営体によっては、新規就農や後継者が不足しており農業を継続していくことが困難になっています。

阿智村産業振興公社の研修制度を利用した地域おこし協力隊の採用や新規就農者、振興作物・特産品への支援により規模拡大を図っている担い手も多い。早期退職からの就農者や転職による就農相談も増加しています。また、今後は農地保全のための組織や団体の設立への支援などの幅広い柔軟な対応が求められます。

阿智ライスセンターについては、周辺のライスセンターとの集約が進んでいる中で、村の水田農業の確保と継続の為、検討をする必要があります。

### 施策の基本方向

（１）遊休農地の発生防止に努めます。

施策の展開	取組内容
① 遊休農地を減らし、発生を防止する活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中山間地域等直接支払事業、多面的機能支払事業等、国・県の制度を普及・活用し集落全体で農地の保全に努め、将来において地域の中心となる集落営農の組織化、法人化を推進します。</li> <li>○ 遊休荒廃農地の復旧・復活への取組、復旧された農地への振興作物の栽培を支援します。</li> <li>○ 農業の大切さを教える教育に取り組みます。</li> <li>○ 有害鳥獣による被害の軽減に取り組みます。</li> </ul>

（２）担い手の育成を農業関係団体、関係機関と連携し推進します。

施策の展開	取組内容
① 担い手の育成支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農地有効利用相談員がコア（核）となり農業委員、農地利用最適化推進員と協力し農地の出し手と借り手の情報を共有しながら、計画的な担い手への集積・集約に努めます。</li> <li>○ 国や村の新規就農者支援制度と地域おこし協力隊制度を活用し担い手を育成します。</li> <li>○ 認定農業者、認定新規就農者、集落営農組織など制度の普及に努め、リーダーの確保、新規就農者や組織の経営安定を図ります。</li> <li>○ J A、南信州農業農村支援センターなど関係機関と協力し担い手の育成、支援を図ります。</li> <li>○ J A 研修施設や阿智村産業振興公社研修所と連携し新規就農を支援します。</li> </ul>
② 生産者支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 振興作物（きゅうり、アスパラ、トマト、パプリカ等）を栽培する農業者への産地化と規模拡大を支援します。</li> <li>○ 特色ある農業や意欲的な取り組みを支援します。</li> <li>○ 大豆・そばの生産面積拡大と良質化、作業の効率化そして産地化を目的に、必要機械の購入と設置保管場所の建設について研究します。</li> <li>○ 畜産農家の担い手確保につながる支援を充実強化します。</li> </ul>

4 産業振興・雇用創出【4-2-1 阿智の特色を生かした農業振興（農業の振興）】

（3）地域資源を活かした農業の振興をめざします。

施策の展開	取組内容
① 地産地消（地消地産）の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農業と観光等他産業が、タイアップ（協力・提携・結びつき）して、新しい企画への取組を実施します。</li> <li>○ 阿智ライスセンターについて、関係機関と協議・検討を行います。</li> <li>○ 地産地消（地消地産）が容易に可能な農産物生産と直売施設の研究と取組を実施します。</li> </ul>
② 農業・農村基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 村単土地改良事業により、地元施行で農業基盤の整備を行い維持管理費の軽減をめざし、耕作放棄地の拡大を防ぎます。</li> </ul>

成果指標

指 標 名	基準値 (基準年度)	目標値(R9)			備 考
		数値	単位	期間等	
農業産出額	9.7 億円 R2(2020)	10.0	億円	年	公表年度に示された数字
農地の再生	23.7ha R3(2021)	30.0	ha	延べ	
認定農業者	36 経営体 R3(2021)	45	経営体	延べ	

## 4-2-2

関連する SDGs の目標



## 阿智の特色を生かした農業振興（有機活用農業の推進）

[建設農林課 農政係]

**施策目標** 5年後の阿智村を見据えて

阿智村認証農産物の安定生産と有利販売を推進することで、誇りや生きがいを持って農業に取り組み、生活が成り立つ農業従事者の増員をめざします。

**現状と課題**

農業従事者の高齢化に伴う遊休農地の増加と生産力の低下が課題です。

有機活用農業の実践組織である阿智村産業振興公社が中心となり、認証農産物のブランド化を推進し、コープあいち、市場、阿智PAやさい村、中津川市等でも販売実績を上げてきました。

阿智村ならではの農業システムを一層充実・発展させ、村内農家の収入安定により遊休農地の発生防止と生産量の減少を食い止める施策強化が必要です。

担い手育成と有利販売に向けて、より一層の事業拡大が必要となります。

平成22年に設立された産業振興公社が、有機活用農業の実践組織として発展的な活動を続けて来ました。

また、有機活用農業振興会の会員は、阿智村認証農産物の生産に精力的に取り組んでいます。消費者の皆さんにもこの認証農産物の価値を理解していただき、推進することで生産を続けている状況があります。

しかし、新型コロナの影響を受け阿智PAやさい村での販売、各種イベント販売の実施は厳しくなり、消費者の生活スタイルの変化とともに必要とされる農産物や消費量の変化に対応が必要となりました。新規就農者は少なからず増加していますが、高齢化による生産者・生産力の低下は明らかで、公社設立当初から実施してきた様々な事業の見直しが必要となり、令和4年に「阿智村産業振興公社みらい構想」を作成し今後の指針をまとめました。

現在の新規就農者は、生業として成り立つ稼げる農業を目指す中で多品目の生産から単一品目の生産へと偏りが出てきています。また、シャインマスカットなど新しい農産物へのチャレンジを検討する若手農業者も増加しているため、栽培品目の変化に合わせた指導力の強化、市場等との調整を図る必要があります。ふるさと納税など新しい販路も拡大を図りながら、1袋から出荷できる公社の良さとフットワークの軽さで有利販売を一層拡大し、担い手育成を図る必要があります。

### 施策の基本方向

（1）有機活用農業実践者の確保をめざします。

施策の展開	取組内容
① 有機活用農業実践者の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目的別生産者の確保を進め、新規専業農家の確保と既存農家の継続推進を行います。</li> <li>○ 年間出荷額100万円をめざす、新規いきがい農家の確保と既存農家の継続推進を行います。</li> <li>○ 後継者育成事業により担い手農家の育成を行います。</li> </ul>

（2）認証農産物の有利販売と販売拡大に取り組みます。

施策の展開	取組内容
① 認証農産物の有利販売と販路拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 村内の直売施設設置に向けて研究を行います。</li> <li>○ 直売出来る場所と方法の研究を行います。</li> <li>○ 観光組織との連携またはふるさと納税のPRにより、販路開拓をします。</li> <li>○ 特産品開発に取り組みます。</li> <li>○ 阿智産米の流通の拡大に取り組みます。</li> </ul>

（3）完熟堆肥の安定供給および有効活用の推進をします。

施策の展開	取組内容
① 完熟堆肥の安定供給および有効活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 優良堆肥の安定供給対策として、「あち有機生産組合」への支援を継続します。</li> <li>○ 有機活用農業実践者に対する堆肥購入補助を継続します。</li> <li>○ 堆肥成分検査および臭気検査費用を補助します。</li> </ul>

（4）後継者育成事業を充実させます。

施策の展開	取組内容
① 後継者育成事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農業関連教育機関との連携等による農業体験の実施及び定住促進事業との連携により、就農研修生の確保を行います。</li> <li>○ 県主催の新規就農相談会や企業主催の就農相談会等へ参加し、研修生の確保を行います。</li> <li>○ 帰農者や女性向けの栽培研修会の開催をします。</li> <li>○ 公社の雇用による研修事業を検討します。</li> </ul>

（5）栽培指導力の強化に努めます。

施策の展開	取組内容
① 栽培指導力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社員・住民に信頼される技術員の育成により、農家の生産力をアップします。</li> <li>○ 経営指導力のある人材育成と専門知識力の強化に努めます。</li> <li>○ 農業法人設立に向けた研究を行います。</li> </ul>

成果指標

指標名	基準値 (基準年度)	目標値(R9)			備考
		数値	単位	期間等	
認証農産物販売金額	1.0 R3(2021)	1.9	億円	年度	
認証農産物生産者	199 R3(2021)	225	人	年度	
担い手育成	1 R3(2021)	10	人	延べ	

# 4-3

関連するSDGsの目標



## 里山の風景を残す林業振興

[建設農林課 林務係]

### 施策目標 5年後の阿智村を見据えて

豊富な森林資源と、里山のもつ多面的機能を最大限に活かし、明るく風通しのよい健全で持続可能な山林づくりをめざします。

### 現状と課題

国による森林環境譲与税の先行配分や、それを財源とした新たな森林管理システムの施行により、森林整備を促す施策が急速に進められている中、ウッドショックによる木材価格の高騰も見られるが、大半が小規模分散化し採算性が悪いことや、所有者の高齢化と不在村化や世代交代後の山離れにより森林の適正な管理が行われず、森林が持つ多面的機能が十分に発揮されない状況となっているなかで住民主体の里山整備の団体が5つ立ち上がり、住民による里山整備が進められております。

ニホンジカをはじめとした獣害や害虫による松枯れやナラ枯れといった被害の増加が見られその対応を求める声もあります。

森林整備の重要な役割を果たす林道は昭和に開設された路線が多く、経年劣化、近年の異常気象により損傷があり継続して維持管理を実施する必要があります。

こうした状況を踏まえて、新たな森林管理システムによる意向調査を基に、行政による円滑な森林整備の促進と、令和3年度に設立されたNPO法人あち森と森林資源利活用推進事業による地域内資源循環システムを早急に整備し、森林所有者だけではなく多くの住民の森林整備に対する意欲増進、担い手不足の解消、カーボンニュートラルを推進する必要があります。また、南信州フォレストパークと連携し、多くの村民が森林に係わり、関心を高める事により地域の活性化に取り組みます。

### 施策の基本方向

(1) 森林の持つ多面的機能が十分に発揮される森林整備を進めます。

施策の展開	取組内容
① 健全で災害に強い森林整備の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 森林環境譲与税、森林税を活用した事業や森林造成推進事業による森林整備を推進します。</li> <li>○ 効率的な施業のための集約化を推進します。</li> <li>○ 広葉樹林の育成推進をします。</li> <li>○ 適正な森林整備を推進します。</li> <li>○ 道路、河川の危険木伐採、竹林整備の推進。</li> </ul>

（2）さまざまな用途への森林資源の利用を推進します。

施策の展開	取組内容
① 木材の多用途な利活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 未利用材を有効活用するため搬出支援事業を推進します。</li> <li>○ 支障木を伐採し薪ボイラー等の実験、薪の青空市を定期的に開催する。薪ステーションを設置し森林資源の利活用、自伐林家増加による地域内資源循環を構築し、安定的な木質バイオマス利用のための仕組みづくりを推進します。</li> </ul>

（3）基盤整備、路網整備により地域内の資源循環を推進します。

施策の展開	取組内容
① 基盤、路網整備と境界の明確化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 環境、地形を考慮し、安全で低コスト搬出の為の基盤整備、路網整備を推進します。</li> <li>○ 境界不明確な森林の解消を推進します。</li> <li>○ 林道の維持管理を継続して実施します。</li> </ul>

（4）野生鳥獣の被害対策に取り組みます。

施策の展開	取組内容
① 有害鳥獣による被害の軽減	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 有害鳥獣による被害の軽減に取り組みます。</li> <li>○ 新規従事者の確保を推進します。</li> <li>○ 有効な猿害対策の研究を行います。</li> </ul>

（5）林業関係団体へ育成支援を進めます。

施策の展開	取組内容
① 関係団体の活動支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 木材の有効利用を研究、実践する団体を支援します。</li> <li>○ 木育活動（後継者やあらゆる住民を対象とした山を守り続ける為の学習活動）を進めます。</li> <li>○ 林業関係団体と各種研修を実施し、森林整備に対する意欲増進、自伐林家の増加につなげます。</li> <li>○ 南信州フォレストパークとの連携。</li> </ul>

成果指標

指標名	基準値 (基準年度)	目標値(R9)			備考
		数値	単位	期間等	
間伐面積	66.3ha R3(2021)	200	ha	延べ	
薪ステーション設置	0カ所 R3(2021)	1	カ所	延べ	
境界明確化実施済面積	58.3ha R3(2021)	300	ha	延べ	
森林経営管理制度森林所有者意向調査実施森林面積	244ha R3(2021)	1155	ha	延べ	意向調査対象森林面積：2,146ha

長野県の南西部。岐阜県と愛知県に接する長野県下伊那郡阿智村・平谷村・根羽村は、総面積の92.7%が森林で占められています。3つの村がつながって、“森”をキーワードにしたエリア連携プロジェクト『南信州フォレストパーク』、はじまります。



## 4-4

関連する SDGs の目標



## 地域に根差した商工振興

[商工観光課 商工係]

**施策目標** 5年後の阿智村を見据えて

厳しい経営環境の中でも、地域住民の生活を支え、地域に根差した商工業の経営を持続発展させ、新規事業の起業等により、持続可能な村づくりを進めます。

**現状と課題**

地域経済を担う中小企業は世界の急激な変化に対応しつつも、確たる技術力とスピード感を持ち地域の経済・雇用・文化を守っています。しかし、消費の好転はまだ見いだせず、中小企業を取り巻く環境は依然厳しいものがあります。

村の商業、サービス業においても、少子化や核家族化等による消費者ニーズの多様化やアップロードを中心とした大型店の増加、低価格志向等により厳しい経営環境に置かれています。ふくまるくんカードや、住宅リフォーム補助、商品券事業等を行い消費喚起に取り組んでいますが、依然として厳しい状況は変わりありません。

製造業においても、積極的な動きや短期的な景況感の好転の声も聞かれるものの、厳しい状況に変わりありません。

高齢者の増加など時代のニーズに対応したサービスの提供や、賑わいのあるまちづくりなど、地域に根ざし、地域の暮らしを支える産業である商工業を振興することが必要です。また、観光で訪れるお客さんの消費を誘導する仕組みづくり、予定されている大規模な公共的事業に伴う受注について検討もしなくてはなりません。

今後も商工団体等との連携による商工業者の経営革新支援、創業支援事業計画に基づく若者、女性を中心とした新規創業支援を行うことが必要です。

社会経済状況や商業環境の変化などに柔軟に対応するため、感染症防止対策や新しい事業転換等に取り組む事業者に対して商工会をはじめとする関係機関と連携し支援する必要があります。

商業の推移（商業統計・経済センサス-活動調査）

年次	事業所数	従業員数	商品販売額	備考
平成 19 年（2007 年）	97	361 人	4,599 百万円	
平成 24 年（2012 年）	74	272 人	3,622 百万円	
平成 28 年（2016 年）	77	307 人	4,974 百万円	

法人均等割納税義務者数（課税状況等の調）

年次	法人数	備考
平成30年（2018年）	228社	
令和元年（2019年）	229社	
令和2年（2020年）	229社	
令和3年（2021年）	235社	
令和4年（2022年）	238社	

阿智村商工会法定会員数（阿智村商工会調べ）

年次	会員数	備考
平成30年（2018年）	268人	
令和元年（2019年）	260人	
令和2年（2020年）	255人	
令和3年（2021年）	263人	
令和4年（2022年）	265人	

### 施策の基本方向

（1）経営力向上、経営革新の推進を行います。

施策の展開	取組内容
① 経営支援、金融支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 融資斡旋事業、起業支援資金の有効活用を進めます。</li> <li>○ 商工業者への経営支援事業に取り組みます。</li> <li>○ 地域産業の特色を活かした、新たな雇用の創出をめざします。</li> </ul>

（2）地域に根差した商店街づくりにより地元消費を進めます。

施策の展開	取組内容
① 地域に根差した商店づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 消費者の視点に立ったサービスを推進します。</li> <li>○ 地域コミュニティの場としての商店経営を支援します。</li> </ul>
② 地域内消費の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ふくまるくんカードの利用推進を支援します。</li> <li>○ 巡回バス、デマンドタクシーでの買い物、満足度を上げるための取り組みが必要です。消費行動につながるインセンティブ（住宅リフォーム補助 商品券事業 等）を随時研究します。</li> </ul>

③ 公共事業等の受注を検討	○ 阿智村の発注する工事、業務の入札等に村内事業者が参加できるよう支援します。
---------------	---

（3）観光客による村内消費の活性化を進めます。

施策の展開	取組内容
① 観光と連携した消費の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観光客の村内店舗への誘導を推進します。</li> <li>○ 特産品のとりまとめを行い、観光客が買い求めやすい環境づくりを進めます。</li> <li>○ 観光との連携により、相乗効果をめざします。</li> </ul>

（4）将来につながる産業の育成を行います。

施策の展開	取組内容
① 企業誘致	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ リニア開業、三遠南信道全線開通などにより、首都圏、中京圏へのアクセスが飛躍的に良くなることを見据えた企業誘致に取り組みます。</li> <li>○ 工場用地が斡旋できるよう調査・確保に努めます。</li> <li>○ ワークーション・サテライトオフィス等新たな働き方について支援します。</li> </ul>
② 創業支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 創業支援計画に基づき、新規創業の支援を行います。</li> <li>○ 村独自の創業（起業）支援の施策を検討します。</li> </ul>
③ 既存企業の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 既存企業へのヒアリングなどにより、事業環境の整備を検討します。</li> <li>○ 事業承継による事業の継続について支援を検討します。</li> </ul>
④ 社会環境の変化に対応した事業の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ リニア・三遠南信自動車道による地域産業の発展的な見直しの検討を行います。</li> <li>○ アフターコロナに対応したビジネス展開を支援します。</li> <li>○ 世界的な金融不安や景気悪化、感染症等の際には、状況を把握し、対応策を検討します。</li> </ul>

## 成果指標

指 標 名	基準値 (基準年度)	目標値(R9)			備 考
		数値	単位	期間等	
法人均等割納税義務者数	238 R4(2022)	240	社	延べ	課税状況等の調 (7月1日現在)
商工会会員数	265 R4(2022)	270	人	延べ	商工会法定会員数 (4月1日現在)

# 4-5

関連する SDGs の目標



## まちづくり計画

[商工観光課・リニア整備対策室・建設農林課・協働活動推進課]

### 施策目標 5年後の阿智村を見据えて

将来の村づくりの個別計画として、10年後、20年後の村の姿を模索していく必要があります。また、リニア中央新幹線、三遠南信自動車道の整備が南信州エリアで進んでいます。開通後を見据えた地域振興戦略、まちづくりの観点から重点的に取り組めます。

### 現状と課題

数年後のリニア・三遠南信自動車道開業を見据え、全国から南信州や阿智村を訪れる観光客の拡大、そして定住へとつながるまちづくりを進めています。しかし、村の方向性を左右する大きな事業のため、多くの皆様のご意見を聞きながら検討し、併せて住民生活や経済活動等への影響を軽減するべく関係機関とともに工事関係者には十分な対応を求め、必要な対策を講じていきます。

### 施策の基本方向

#### (1) わいWai 公園周辺計画

施策の展開	取組内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>① C地区の具体化</li> <li>② 公園工事の実施</li> <li>③ 運動公園周辺整備検討委員会による意見の集約</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ C地区基本設計・実施設計</li> <li>○ 公園工事の実施</li> <li>○ 運動公園周辺整備検討委員会による意見の集約</li> </ul>

#### (2) リニア発生土を活用した地域振興

施策の展開	取組内容
リニア発生土の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域振興（産業団地・道の駅・村道整備・分譲住宅地など）につながるリニア発生土置き場の候補地（七久里地区ほか）について地域の皆さんと情報を共有し検討します。</li> </ul>

